

ソフトウェアとことば

認知言語学との小競り合い

岸田孝一

@ SEA 上海Forum

2013/10/19

ある衝撃

- 少年時代に愛読した書物：『古事記』
- ある皇子が自分の住む家を川の岸に建てた。
- ひとはその家を
「あしあがりひとつのみや」と呼んだという。
- 現在の「ピロティ様式」だが、仮名文字だけを用いた美しい表現！

詩についての経験

- 最初に読んだ詩集は『唐詩選』
 - 漢字による表現の不思議さ
 - 定型詩というフレームワークの魅力

好きな詩人は王維だった

竹里館

獨坐幽篁裏
彈琴復長嘯
深林人不知
明月來相照

ロックもどき

今夜もおれはひとり

ギターをかき鳴らして唄っている

深い森のなか 聴衆は誰もいない

月光がおれのステージを照らすスポットライト

おまけに 漢詩の現代語訳もう1篇

早春雨中 by 高橋玉蕉

無酒無花空渡時
春寒料峭粟生肌
新泥細雨情慵出
独向窓前覆昨碁

女流ポップス風に訳すと

お酒 切れちゃった
桜も 終わって
むなしい朝

寒いわ
なんだか 寒気がする
鳥肌が たちそう

もう いや
なんにも 考える気がしない
庭には きりさめ

トランプの ひとりあそびも
飽きちゃったし
春はやっぱり やさしい敵

そして戦後日本の現代詩

金子光晴：

不良青年から不良老年への軌跡

夏目漱石からつながる個人主義の系譜

「荒地グループ」

特に、田村隆一の初期の作品群

日常言語を用いた非日常世界の構築

コンピュータの世界へ

- 詩的言語と仕事の場での言語の違い
- 表現とは？
- コミュニケーション: ツールとしての言語

言語学との接触(1)

- S.I.ハヤカワ: 『思考と行動における言語』
(岩波書店)
 - 初めて手にしたのは学生時代
 - 一般意味論への扉
 - コミュニケーションとは何か?
 - 「論争の静水学原理」by ウェンデル・ホームズ

言語学との接触(2)

- プログラマになってからのつまみぐい
 - ソシュール: 構造主義言語学
記号とそれが指し示すもの
 - チョムスキー: 生成文法
コンパイラ作りの理論的基礎
 - ウォーフ: 言語相対論仮説
未開人の世界認識

認知言語学の誘惑

- George Lakoff:

“Women, Fire, and Dangerous Things”

(Univ of Chicago Press, 1987)

– SFO の本屋で、タイトルの面白さに釣られた

– パトナムの定理から受けた衝撃

記号に意味を割り当てるのは無意味！

– 邦訳は：『認知意味論』（紀伊国屋書店）

コトバと認知

- 井筒俊彦：『意識と本質』（岩波文庫）
 - コトバの分節機能への関心
 - 臨済義玄禅師の言行：
『臨済録』
 - イスラム神秘主義も面白そう

レトリックとソフトウェア設計

- 佐藤信夫さんのいくつかの著書
 - レトリック感覚
 - レトリックの記号論
 - レトリックの意味論
 - レトリック認識
 - わざとらしさのレトリック
 - いずれも講談社学術文庫
 - 例題としての夏目漱石や内田百閒

比喩のいろいろ

- 直喩(シミリ)
 - ひとりの若い女が、鳥の飛び立つ一瞬前のような感じで立って私を見ていた.
- 隠喩(メタファ)
 - かれの目の色がかすかに動いて、笑いのさざなみを含んだようであった.
- 換喩(メトニミー)
 - ほかにも、雨宿りをする市女笠や揉烏帽子などが二、三人はありそうなものである.

田中克彦さん

- 日本の言語学会では非主流
- 言語標準化イデオロギーの欺瞞を暴く
 - 言語と軍隊の標準化が国民国家の2本柱
- 強烈なチョムスキー批判
- 鈴木孝夫さんとの対談記録が面白い
 - 『言語学が輝いていた時代』(岩波書店)

そして、今年

- 西村義樹 & 野矢茂樹

『言語学の教室

– 哲学者と学ぶ認知言語学』

(中公新書)

『教室』の目次構成

1. 認知言語学の誕生
2. 文法は意味と切り離せるか
3. プロトタイプと百科事典的意味論
4. 使役構文の家族的類似性
5. メトニミーをどう捉えるか
6. メタファー, そして新しい言語観へ

いくつもの面白い例題

たとえば

- 昨日、雨に降られちゃった
- 昨日、財布に落ちられちゃった。

ソシユールの発言

- 「言語学は規範の学ではない」
 - 「正しいコトバ」とか, 「美しい日本語」とかいうのはまやかし
- 言語学者コセリウの名言:
 - うつろいゆくこそ, コトバなり
- ではソフトウェア工学は？
 - やはり, 「規範の学」と考えてはいけないのではないだろうか？

教室の第6章

- 「言語学は実証の学ではない」
 - 何かルール(らしきもの)を考えると, 必ず反証例が見つかる.
- ソフトウェア工学も, やはり「実証の学」ではありえない
 - Empirical Study の本質的欠陥?

コトバとは？

- マイケル・ジャクソン:「ソフトウェアは世界をモデル化した機械である」
- われわれは, どうやって世界を認識するか？
- 認知言語学からのメッセージ
 - われわれが世界を認識するさいの基本的な道具としてのコトバの働きに注目しなければいけないだろう.

花

蝶鳥の
知らぬ花あり
秋の空

松尾芭蕉

海

さえぎるな

言葉

私と海のあいだを

谷川俊太郎

「時の流れ」というメタファ

- 孔子:「行くものはかくのごときか, 昼夜をおか
ず」
- 点時刻のつながりとしての直線的時間という
認識
- しかし, 「時の流れ」に河岸は存在しえない!

もうひとつの例題

- パイプが詰まっている.
- パイプにゴミが詰まっている.

時は流れず！

- 大森荘蔵先生の卓見
- 点時刻のつながりとして時間を認識したのでは、アキレスと亀のパラドクスは解けない！
- 「過去」は物語でしかない → 「語り存在」
- 「現在」は点ではなく、近未来と近過去を含んだあいまいな領域である。

プログラミング言語

- 一般には, ステートメント(操作命令)を単位として扱う
- ステートメントのつながりとしてプログラムが書かれる

奇妙なインタープリタ言語

- 単なる記号のつながりとしてプログラムをとらえる
- ひとつの記号を処理したあと、次の記号をどこから持ってくるか？
- 通常は、メモリーの隣の場所
- しかし、特殊な制御記号を導入して、任意の場所から持ってくることができる
- その結果、入出力命令が不要になる
- 手続き呼び出しも自由自在

ヴィトゲンシュタイン

- 世界はモノの集まりではない。成立していることがらの総体である。
- さて、オブジェクト指向とは？

Thank You!

